

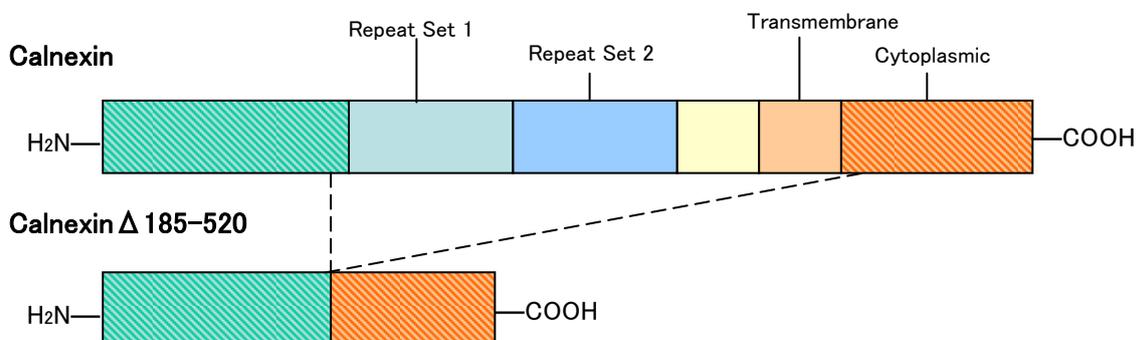
抗ヒトカルネキシンΔ185-520 モノクローナル抗体(Clone.No. 2E9)

未成熟な新生タンパク質は、粗面小胞体(Endoplasmic reticulum : ER)において正しく折りたたんで高次構造を獲得し、機能を持ったタンパク質への成長(フォールディング)が必要です。フォールディングの介添を行うタンパク質を分子シャペロンと呼び、その一つであるカルネキシンはミスフォールディングタンパク質や不完全なタンパク質の認識および保持に関与していることが明らかになっています。近年見いだされたカルネキシンスプライシングアイソフォーム(カルネキシンΔ185-520)はカルネキシンと異なり、膜貫通ドメインを持たず、また、レクチン活性およびカルシウム依存性活性に関わるリピート部分を持っていないという特徴を持っています。

カルネキシンが関与していると言われる遺伝性疾患に嚢胞線維症(cystic fibrosis : CF)があります。この疾患はCl⁻チャネル(CFTR)の変異によりフォールディングに異常が生じ、その結果、カルネキシンによって mutant CFTR が ER に保持されて様々な致死的な症状を起こすと考えられております。またカルネキシンΔ185-520はこのカルネキシンの相互作用を阻害する可能性が報告されており、CF の新しい治療法につながるものが期待されます。

本抗体はカルネキシンには反応せず、カルネキシンΔ185-520 のみを認識するマウスモノクローナル抗体でウェスタンブロットティングに使用できます。

| | |
|--------|--|
| 容量 | 50μg (200μL/vial) |
| 形状 | マウスモノクローナル抗体 0.25mg/mL、凍結品 |
| バッファー | PBS [2%ブロッカー(安定化蛋白)、0.1%proclin 含有] |
| 保管方法 | -20℃以下 抗体を低濃度にて冷蔵保管されますと、失活する恐れがあります。 融解後は4℃で保存し、お早めにご使用下さい。 また凍結融解を繰り返すことは避けて下さい。 |
| クローン番号 | 2E9 |
| サブクラス | IgG1 |
| 製造方法 | カルネキシンΔ185-520の部分ペプチドを免疫したBALB/cマウスの脾臓細胞とマウスミエローマP3U1を融合して得たハイブリドーマを無血清培地で増殖させ、培養上清を採取し、IgGをProtein Gアフィニティーカラムにて精製。 |
| 使用濃度 | ウェスタンブロットティング:0.2~1.0μg/mL |



抗体作成・研究指導:
 熊本大学大学院医学薬学研究部先端生命医療科学部門
 分子機能薬学講座遺伝子機能応用学分野
 甲斐 広文 教授

抗ヒトカルネキシンΔ185-520 モノクローナル抗体(Clone.No. 2E9)

【参考文献】

1. Okiyoneda T, Wada I, Jono H, Shuto T, Yoshitake K, Nakano N, Nagayama S, Harada K, Isohama Y, Miyata T, Kai H.
Calnexin Delta 185-520 partially reverses the misprocessing of the Delta F508 cystic fibrosis transmembrane conductance regulator.
FEBS Lett. 2002 Aug 28;526(1-3):87-92.
2. Okiyoneda T, Kai H.
Introduction of the conventional method of DNA transfection by adenovirus vector
Nippon Yakurigaku Zasshi. 2002 Jun;119(6):337-44. Japanese.

製造元

 **株式会社トランスジェニック**

〒650-0047 兵庫県神戸市中央区港島南町 7-1-14

TEL: 078-306-0295 FAX:078-306-0296

URL:<http://www.transgenic.co.jp> techstaff@transgenic.co.jp